

報告書の作成にあたって

私は、当別町が北欧のスウェーデン王国レクサンド市とナゼ姉妹都市の提携をしたのかと今でもよく尋ねられます。

昭和29(1954)年に洞爺丸台風が北海道を襲った。この台風は北海道の原生林に壊滅的な打撃を与えた。森林資源の枯渇を恐れた北海道の木材業界は沿海州からの木材輸入を検討したが輸入した外材を貯蔵する港湾が問題となった。これを解消する為に、昭和32年頃から石狩湾新港プロジェクトが始まったのである。そして昭和47年に石狩湾新港は重要港に指定されたナショナル・プロジェクトとなって工業団地と産業誘致が進められる事となった。この工業用地は北海道でこそ可能な機能面、環境面共に日本最高水準で企画するとそれに従事する人も多数集まって来るので北海道でなければ出来ない快適な住宅地域の開発が「ゆったりタウン」と云う名称で当別町獅子内の丘に計画された。

この住宅用地に造られたニュータウンを聖路加看護大学の日野原重明学長が今後は急速に高齢化社会に突入するので「老人が快適に安心して生活出来る街づくりや住宅設計が必要だと述べられた事を参考にして、トモクグループが中心になり、昭和58(1983)年「スウェーデン交流センター」を設立することとなり、予定地である当別町は町をあげて協力する決議をし、昭和62(1987)年、レクサンド市と姉妹都市となったのです。

姉妹都市提携調印には、配野町長等15名がレクサンド市へ行き、2年後には早くもスウェーデン王国のカール16世グスタフ国王陛下が来町されたのです。以後相互に交流が毎年のように行われ、私は1988年に町議会議員団として訪問したのを初め、今回は3度目のレクサンド市訪問でありました。

当別町はこの度の25周年記念式典出席にあたり、当別レクサンド都市交流協会の推薦を受けた町民38名の方々とスウェーデンに関係する町外の団体の方々34名合計72名が参加することになったのは、単なる交流を続けるのではなく、今までの交流を基盤として自治体単独では取り組めない事業、例えば「持続可能な理想の未来都市づくり」など様々な団体の協力を得ながら進めることが出来る体制を構築したいと考えたからであります。

この考え方に最も理解を示され、多大なるご支援を頂きました駐瑞日本大使の渡邊芳樹大使閣下をはじめ大使館の方々に深甚なる感謝と心から敬意を表してます。

その誠意と町民各位のご協力が今後益々当別とレクサンドの交流に成果を上げる事を信じてこの度の訪問団員による報告書を作成いたしました次第でございます。

訪問団長

当別町長 泉 幸俊 考